

# 小麦「さとのそら」の主稈長による茎立ち期、幼穂長による出穂期予測法

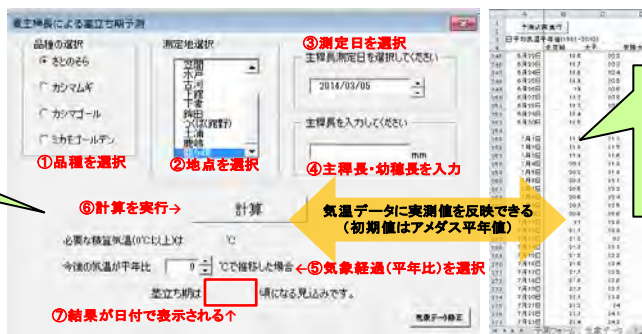
高精度な生育予測に基づく適切な栽培管理の徹底により、新品種「さとのそら」の高品質安定生産を目指す！

## 研究開発の背景

- ・麦類の高品質安定生産には、生育ステージに応じた適切な栽培管理が重要となる。
- ・小麦「さとのそら」については、シンプレックスDVR法による予測モデルが公表されているが、圃場における生育データを使用しないため、簡便である反面、後半の生育ステージほど予測精度が低下しやすいといった欠点をもつ。
- ・そこで、生育データを用いることで予測精度を高めた、新たな生育予測技術を開発する。

## 研究成果の内容

◆表計算ソフトの利用により、簡易な操作で高度な予測結果が得られる。



◆予測用ファイルは、ホームページからダウンロードが可能。

予測用表計算ソフト操作画面(茎立ち期予測用)

◆生育ステージに合わせた適期栽培管理の徹底や、効果的な追肥時期の判定等に活用。



◆主稈や幼穂が主に気温によって伸長することを利用し、茎立ち期・出穂期を精度良く予測する。

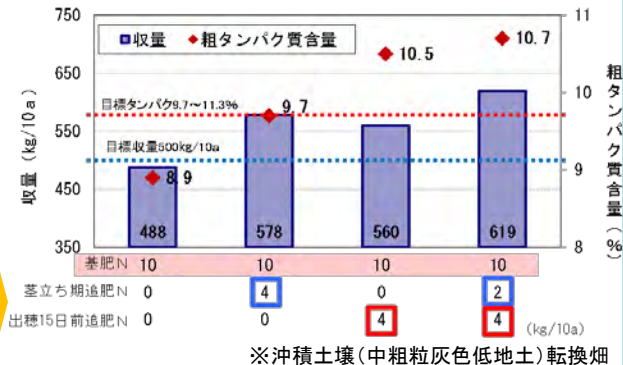
生育データ(主稈長・幼穂長)と気温から茎立ち期・出穂期までに必要な積算気温や日数を計算

茎立ち期

出穂期

成果の応用事例

小麦「さとのそら」における追肥時期が収量・タンパクに及ぼす影響(平成23年)



茎立ち期の追肥は収量を、出穂15日前の追肥はタンパクを効果的に向上させる。茎立ち期の生育状況に応じて、足りない部分を補うための追肥法を選択する。

## 期待される効果

- ・精度の高い茎立ち期・出穂期の予測が可能となるため、麦踏み・追肥・赤かび病防除・収穫等の栽培管理について、効率的な作業計画の作成に活用できる。
- ・生育ステージに応じた適切な栽培管理を徹底することで、「さとのそら」の高品質安定生産が図られる。

開発機関: 茨城県、栃木県、埼玉県 【予算区分: 委託プロジェクト研究】

茨城県での「さとのそら」栽培圃場における予測法の活用率

平成26年度 38%  
平成27年度以降 100%

導入をオススメする対象  
関東を中心とした「さとのそら」栽培地域